

## 第6回未来ビジョン会議

- 1 日 時 平成29年11月8日（水）午後7時から午後8時30分
- 2 場 所 伊東市役所8階大会議室
- 3 出席者 伊東市未来ビジョン会議委員13人（欠席5人）  
市長、若山副市長、佐野副市長、教育長、市長戦略監、企画部長、  
子育て支援課長、幼児教育課長
- 4 意見交換 内容は以下のとおり

（行政経営課長）

本日もお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

定刻になりましたので、ただいまから平成29年度第6回未来ビジョン会議を開催いたします。

※欠席者報告

それでは、小野市長から挨拶を申し上げます。よろしくお願いいたします。

（小野市長）

改めまして、皆さん、こんばんは。

本日も大変お疲れのところお集まりいただきまして、ありがとうございます。

未来ビジョン会議は、前回、前々回とグループごとに分かれ、子育てしやすいまちづくりに向けた施策の提案をいただくための作業を進めていただきました。本日、ここで発表していただくわけでございますけれども、私も期待感があります。というのは、やはり、今までの市の政策というのは、市の職員がいろいろな情報を持っているにしても、自らが感じた体験というものではなく、実際には机上の議論というものが多かったのではと感じていました。

その中で皆さんに委員を委嘱しまして、最初は一人一人のご意見を聞きながらという中で始まりましたけれども、このようにグループに分かれていろいろな立場でお集まりになっている皆さんが、多分、率直に意見を交わしていただいたものと思っております。その中で、今日、まとめあげていただいた3案についてご提案いただくわけですが、これについては私も皆さんにお約束したとおり、皆さんの声が反映できる、そういった伊東市の政策を作ると言った以上、皆さんの提案を必ず成果として出していく覚悟でございます。

そういう中で、今日、提案をお聞かせいただき、また、後ほど意見交換をしたいと思っておりますが、施策を考えていく過程において、皆さんの生の実体験であるということ、これに私も大変期待をしております。

今日は冒頭に少しお時間ありますので、皆さんにまとめていただき、私だけでなく当局の幹部も全員揃っておりますので、ぜひ、ぶつけていただくような気持ちで発表していただきたいと願っておりますので、よろしくお願いいたします。

それではまた後ほどよろしくお願いいたします。

（行政経営課長）

それでは本日の流れにつきまして説明をさせていただきます。

まず、冒頭30分ほどで発表に向けた整理をしていただきたいと思います。中ほどで一度整理具合を確認させていただきますので、その時点で整理できていれば発表に移らせていただきたいと思います。発表につきましては、Aグループ、Bグループ、Cグループの順に各グループ10分程度で政策提案を発表していただきます。各グループの発表終了後、その内容についての質疑応答の時間を設けていますので、ご対応についてもよろしくお願いいたします。

それでは整理をお願いいたします。

#### (各グループ内容整理)

##### (行政経営課長)

それでは、すべてのグループの整理が終了したということですので、これから、提案、発表を行っていただきたいと思います。

要綱第4条第2項に基づきまして、小野市長が座長を務めることとされておりますので、よろしくお願いいたします。

##### (小野市長)

それでは座長として会議を運営させていただきます。ご協力をお願いします。

早速、政策提言の発表を始めさせていただきますと思っております。本日皆さんに提案発表していただいた政策を実現していきたいと考えておりますが、それがまさに皆さん世代の新しい視点からの意見、そして発想を市の施策の形成に反映できるという、まさにこれは未来ビジョン会議の趣旨でございます。時間にも限りがありますので、発表時間についてはさきほど事務局から話があったように、10分程度にまとめていただきたいと思いますということをお願いいたします。

それでは、順番にいききたいと思いますので、Aグループから発表をよろしくお願いいたします。

##### (Aグループ発表)

よろしくお願いいたします。

私たちAグループでは、今まで実施している施策については大変満足しているということと、結果として、施策の提案というか、子育て支援と教育施策のプロモーションの強化ということに目を向けて考えてきました。

今の伊東市の課題と現状ということですが、現状では既存の事業が13事業、伊東っ子誕生祝金や地域少子化対策強化事業などがあります。そして、新たな新規事業といたしまして、通学費の補助、部活動の補助など17事業が挙がっていますが、課題といたしましては、子育て支援・教育施策に関する情報、パンフレット、ガイドブック、チラシが複数あり、それらが一元化されていないのではないかなと思っております。

私たちが提案する施策の内容は、①番といたしまして、子育て支援・教育施策に特化したガイドブックの製作、②番としまして、事業の進捗状況の看板の設置ということです。ガイドブック作成についての例を挙げますと、島根県の川本町のガイドブックです。川本町の子育てということで、このようにガイドブックに子どもたちの笑顔が載っており、この中で川本町の子育て支援制度の一覧などが載ってまして、そのページにいろいろと細かく載って

おり、非常にわかりやすいものでした。私たちAグループでは、伊東市でもこのようなものを作ればよいなと思い、考えてきました。はじめに、イラストや写真を使用し、簡潔な文書で制度を紹介していくということです。このように一覧を載せて一行程度で制度の紹介、それから、QRコードを付けることで、詳細情報が取得でき、ダウンロードが可能となるということです。今、スマートフォンとかパソコンとかを使っている方が多いと思うので、そういうことからQRコードを載せてあれば、それをダウンロードすることで細かい内容が分かりやすく載っているということになります。

次に、新生児から中学生まで世代別に整理されたページの構成ということで、子供が生まれてから中学生になるまで、わかりやすくそれを載せていけたらと思っております。それぞれ年代別に必要とされる助成等をまとめて添付し、一気に情報を取得できるようにしていけば、市民の皆様にとって、その情報でどういう制度があるのかということが分かりやすくなるのかと思います。

次に、公園、病院やコミセン等の公的機関に保育園、学校など、開館時間や地図を写真やイラストを用いて添付しようと考えております。こういうものがあれば、公園がどこにあるのかとか、病院がどこにあるのかとか、そういうこともそうですし、子育てに関していろいろと必要な情報というのがすぐ入手でき、分かりやすいのかなと思います。

次に、支援制度活用向上のため、必要な添付申請書類の記載例を付けたいと思います。パンフレットに添付したQRコードでも、それをダウンロードしていただくと、こういった申請書類を開いて簡単というか市役所に行く手間が省け、なおかつ、そこでこういうものを申請できますということがわかりやすくなるのかと考え、こういうことを説明書きと一緒に載せていきたいなと思っております。

期待される効果といたしまして、情報が一元化されることにより、多数あるパンフレットやチラシ等が削減できるとともに、市民への認知度の向上につながるということです。

伊東市に移住する人についてもガイドブック一冊で子育て支援や教育支援に関する情報が得られるということです。バラバラにパンフレットを見るよりも、情報を一元化して、それを見れば分かるというところが一番いいのかなと思います。あと、伊東市に来てくれた人に対して、何も分からないではなく、これを見れば一目で子育て支援に関して分かりやすいようにしていきたいと思っております。

②番の事業の進捗状況の看板設置について、市役所の市民ロビーに事業の進捗状況が把握できるように看板を設置して、毎月更新をしていくということです。例ですが、選挙の際に、当選すると花をつけていくじゃないですか、それぞれの目標に対して達成したら花をつけていくということです。大きな看板をロビーに置くことによって、市民の皆さんにこういう施策があることを一番分かっていただける。もしわからなかったら、市役所に置いてありますので、担当の課に行ったらこれはどういうことですかということを聞くこともできますので、これはすごく分かりやすくていいのかなと思っております。

市民が一目で利用状況を確認できる、事業効果を把握しやすくなるという効果があると思います。

懸念事項への対応策といたしまして、ガイドブック作成にかかるおおよそのコストを計算しましたが、一冊500円、500円ではちょっと高いなと思うかもしれませんが、なぜ500円かと言うと、しっかりしたものを作ることで、捨てないように取っておいていただく。1家庭に必ず1冊置いていただけるようなものを作りたいということで500円

という設定をさせていただきました。500円かける10,000冊で500万円を見込んでいます。

子育て・教育施策事業の内容変更や新規事業を創設した際や周知の方法として、QRコードを添付しweb上で最新情報を取得できるようにします。もちろん、ガイドブックでも新しいものができたらお問い合わせくださいという案内は流していきたいと思っております。

ガイドブックを設置してもらえる協力事業所の選定について、伊東市医師会などを通じての声かけです。病院等でガイドブックを置いてもらうなど、そういう取り組みをしていけたらなと思っております。

以上がAグループのプレゼンとなります。

今までの施策に関しては十分満足はしていますが、どういうものがあるかということや市民の皆さんがわかっているかということ、正直、分かっていない部分もあると思っておりますので、本当にわかりやすくするとしたら、情報を共有できるという部分で、ガイドブックや看板の設置、あと、スマートフォンを使っている方もいらっしゃいますので、そのアプリとか、QRコードを使って市民の皆さんに情報を提供できたらと思っております。

プレゼンは以上です。ありがとうございました

(市長)

ありがとうございました。

私のコメントのあとに出席者からも質問等があればというふうに思っております。

今、いろいろと現状と課題ということで、現状は私もこれから新規事業を進めていく中であって、課題は、今までいろいろな制度があっても、やはり分かりにくいと、そういう状況があったと思っておりますので、まずは貴重なご意見だということや真摯に受け止めたいと思っております。

それから、ガイドブックによる情報の一元化ですが、これは観光マップなんかもそうですけど、余りにも多すぎる。今までもそれで無駄な紙が多いということがありました。課題として、費用が500万円かかるよということやありますが、市民の貴重なお金を使うのであれば、いろいろと小出しでやっていたものをまとめていくということで、逆にこれが安いものになる。500円のコストをかけることで、これを取っておこうと思えるような物をお配りし、ガイドブックとして家庭になくてはならないものになるということや言えば、課題と思われる費用も逆に安いということになると私は考えます。

実はですね、この9月の議会でこういったものに使えるように補正予算を組んで予算は確保しました。ですから、具体的に提案をいただいたことについてはしっかりと反映していくように検討したいと考えます。

それから、事業の進捗状況の看板ですが、これはグッドアイデアです。例では安倍総理が花をつけていましたが、花をつければ誰でもわかります。同じように、例えば通学費の補助制度のところには花がついたと。これはどこの課でやっているということも分かって、例えば教育委員会の教育総務課でやっているということが分かれば、これは何ってことを聞きに行きやすいということもありますので、施策を目に見える形で、例えば市役所のロビーに置くということやいろいろな方の目にもつき、実現しやすいことを提案していただき、なおかつ効果が高いということで検討に入りたいと思っております。

そして、すぐにできることはすぐにやります。今年度にできなくても来年度に向けてこの方向に必ず道筋を付けていきますので、皆さんが時間をかけていろいろ検討していただいたことについて、必ず実現に向けて進めていきたいと思えます。

それでは、出席者からもコメントをいただきたいと思えますが、最初に教育長から願います。

(教育長)

今のプレゼンを聞きまして大変勉強になりました。

特に、施策について目に見えるように市民の皆様の視覚に訴えていくということは本当に大切なことですね。改めて感じさせていただいたところがございます。また、その中で、今、市長さんからのお話がございましたけれど、情報を一冊にまとめてQRコードを振る、これでさらに分かるようになるということについて、これはやはり素晴らしいなと思えます。教育委員会でも取り上げていきたいと思っております。

ありがとうございました。大変勉強になりました。

以上でございます。

(若山副市長)

子育て支援制度を非常にわかりやすい内容で簡単な文書で示すことですか、あるいは世代別に整理をする、あるいは地図情報の掲載ですとか必要な申請書類を簡単にらせるようにできるということで、わかりやすいガイドブックについてのご提言だということだと思っております。また、進捗状況を示した看板というのなかなかユニークな発想だと思えますけれど、ひとつ思ったのが、こういう制度を利用している利用者の声なんかをうまく市民の皆さんに示せるような中身にしていけるといいのかなと思えますし、あるいは、こういうふうになればこの制度がもっとよくなるよというような意見も拾えるような、そんな看板にできればいいのかなというふうに思いました。

どうもありがとうございました。

(企画部長)

ありがとうございました。

私もこれまでの自分の仕事の中でパンフレットを作るということについては何回か経験がございました。その一番弱いところは最新の情報をなかなか反映しづらい。そのときは最新の情報なのですが、今回の発表にもあったように、制度が変わったりすると、そのパンフレット自体が使いにくくなってしまいうようなデメリットがあったと思えます。それを今回はQRコードとの連携によって、そちらの方で最新の情報を受けることができるということになると、1冊500円という少し高めの冊子を作っても、それが無駄にならないということで非常に良いアイデアだと思えました。

ありがとうございました。

(佐野副市長)

パンフレットという紙媒体というのは非常に重要ですが、それだけではなく、QRコードという紙以外の媒体も活用されていて、非常に有効だと思えます。今、中村企画部長からも話がありましたが、情報の更新というのは非常に重要なので、そういう意味では、きちっと

年度ごとに変わったところだけ加除という形で替えるとか、そういう工夫などができるともっと良くなるかなと感じました。

(市長戦略監)

ありがとうございました。

私は事業の進捗状況の看板について興味があり、私は職務として市長の公約の実現とか政策の実現ということがありますので、できれば子育て支援だけではなく、すべての施策を張り出して実現できたら一つ一つ花をつけていく。そうしたら市民にも本当に見やすい見える化ということのできるかと思っておりますので、ぜひ検討させていただきたいと思っております。

どうもありがとうございました。

(市長)

それではAグループのみなさん、非常に貴重なご提言をいただいたことに心から感謝申し上げます。

ありがとうございました。

それでは、次にBグループの発表をお願いします。

(Bグループ発表)

改めまして、皆さんこんばんは。

Bグループの施策を発表させていただきます。

まず、本日発表の目次をつけさせていただいております。1番から5番まであります。

まず1番目として、施策の名称発表をさせていただきます。その後、2番目として課題・問題点、そして3番目に提案する施策の内容、4番目に期待される効果、5番目に懸案事項と対応策という構成で発表させていただきます。

まず、施策の名称です。子育て支援ポータルサイト(仮)です。そして、2番の課題・問題点・ニーズの方に移っていきますが、こちらはちょっと文字が小さいですが、第3回目の未来ビジョン会議のときに配付された子育て支援の施策の一覧表でございます。文字で書いてありますが、こんなにも充実した子育て支援・教育施策があるにも関わらず、我々Bグループでは、問題点としまして、子育てについて、欲しい情報が欲しいときに得られない。また、家で手軽に情報を得ることができない。こういったことが問題点で、ニーズとしては、もっと手軽に欲しい情報を取れるようにしたいねということを考えました。

そして、提案する施策の内容の説明をさせていただきます。子育て支援ポータルサイト(仮)でございますが、まず目標です。目標としまして、子育て情報の一元化です。実施事項としましては、子育て支援ポータルサイトの立ち上げです。こちらは要するにインターネット上のホームページのようなページを作成して立ち上げるということになります。

期間については、ページができてから継続的に実施する。費用については、とある業者の参考価格ではございますが、月額15万円程度からを想定しております。

次に、具体的な中身の説明をさせていただきます。こちらは、熱海市さんの「ママフレ」という子育て支援をするための行政サービスサイトです。実は、右下に書いてありますが、伊東市もこちらのサイトの導入を検討されているということの話を我々も聞いていました。こちらはどういうサイトかということ、上に、赤い枠のところの幾つかこういう内容が書いてあるんですが、行政サービスであったり、イベントであったり、相談をするにはどこに行っ

たらいいとか、そういう窓口、あとは特集ですね。こういうものを発信したいとか、病院・救急、こういったものがすぐに情報としてアクセスできるようなサイトを運営しています。熱海市さんも去年か今年くらいから、つい最近始めたばかりということで、これに続いて伊東市もやっていくという中で、先ほどのページの行政サービスというところをポチッとクリックしてみますと、ちょっと文字が小さくて申し訳ありませんが、これだけずらずらっと行政がやられているサービスが出てきます。そして、赤枠のところだけ抜粋して拡大させていただきましたが、届出のことであれば、母子手帳の交付だとか出生届だとか、あとは、赤いところで健康、お母さんの健康、右側に行きまして、預けるとか、これだけ種類があって、行政としてはいかにもこれだけやっていますという、こういうページの作り方をしているんですね。ですから、右下に書かせていただきましたが、果たして、こういうサイトから情報が得やすいでしょうか。私は、利用する立場ではそうは思いません。やはりですね、ちょっとこれ右側のページがありました。子供の成長に合わせて情報提供をしていく必要があるのではないかと考えております。まずは、妊娠・出産というところでは、欲しい情報として、例えば、健診のことであつたりとか、あとは相談できる場所はどこなのかとか、そういった情報が欲しいだろうし、そして子供の成長。乳幼児が生まれてからは予防接種のことであつたりとか、子どもが触れ合えるイベントのことであつたりとか、さらに子供が大きくなって児童と呼ばれる世代になってからは、遊び場や習い事の情報が必要になってくるのではないかと考えております。

続いてこちらですが、同じく「ママフレ」ですが、藤枝市さんのページです。こちらを見ていただきますと、赤枠でちょっとずれていますが囲ってございます。行政制度のところですね、何と藤枝市さんは、目的別、年齢別というところで、年齢別のページをもう先駆けて作られています。そして、こちらの年齢別というところをクリックしてみますと、こういうページが現れます。ちょっと文字が小さくて恐縮ですが、上のチェックのところ妊娠前半とか妊娠後半、出産、0歳から5歳まで、こういうところにチェックを入れると、○×の星取りのような形になっていて、いざ自分たちが必要な情報、子供の成長に合わせて情報が取り出しやすいような工夫がされております。伊東市でも、これからこの「ママフレ」というサイトを使われることになるとは思いますが、藤枝市さんの真似をしてほしいというわけではありませんが、本当に我々が使う上で、どういう情報の取り方をしていきたいのかという、利用者の立場に立って、サイトの構成を検討していただければと考えております。

また、もう一つ、我々が提案する施策で子育てポータルサイト（仮）ですけれども、従来、左側の行政サービス、遊び場、イベント、病院・救急以外の情報に加え、伊東市独自のコンテンツとして、習い事。こちらで習い事の情報、例えば、サッカーを習いたい人がいる、では、サッカーはどのようなところがやっているのかとか、そういう習い事を開かれている方の広告を載せる。あとは電子母子手帳、最近、電子母子手帳といって、母子手帳も電子化の時代が来ているそうですが、そういったサービスやコミュニティ機能。さきほどの発表でもありましたけれど、最新の情報の入れ替えという中で、最近ありますツイッターやフェイスブックといったSNSを活用することによって、常に新しい情報を発信して、それに対するコメントをいただけるという双方向でのやりとりがコミュニティとなって、いろいろな情報の発信の仕方ができるようになるのではないかと考えております。こちら右側半分にある赤い文字のものを、伊東市独自のコンテンツということで、「ママフレ」の名前を、もう子育てポータルサイトというふうにしていただけて盛り上げていただければと考えております。

そして、4番の期待される効果ですけれども、こちらは子育て情報について、欲しい情報が手軽に誰でも得られるようになる。インターネットにアクセスできたり、携帯電話の普及率も大分高いです。本当に手軽に得られるようになるのではないかと思います。また、子育てされる世代のストレスの軽減にもつながっていくものではないのかと考えております。

最後のページ、5番の懸案事項と対応策です。懸案事項として、より普及させるために、いかにPRしていくか、また、転入されてきた方にどうやってこのサイトがあることを告知するかといった問題点が挙げられると思います。実際に熱海市さんのページもずっと見ていくと、下に広告募集中と小さくあるのですが、まだ広告を出されている事業者さんもないような状況のようで、本当にこの「ママフレ」というサイトの存在が知られているのか、ちょっと疑問に感じたところです。

それに対する対応策といたしまして、母子手帳ですね。必ず渡すことになると思うんですけれども、渡す際に、子育てポータルサイトがありますよという案内をしていただくとか、また、母子手帳にQRコードを載せ、そちらを読んでもらえれば、すぐにこの子育てポータルサイトにアクセスできる。また、転入者さんへの告知ということのフォローといたしましては、保健師さんによる案内、こういったことにご協力いただくということで子育てポータルサイトの運営をしていただきたいと思いますと考えております。

発表は、以上となります。どうもありがとうございました。

(市長)

Bグループの皆さんからも情報の発信の方法について提案いただきましたが、違う切り口からご提案をいただきました。ありがとうございます。

さきほども申しましたけれども、やはり分かりやすいということがまず必要だと思います。その中で、先ほどは主に紙媒体を一元化するというものでありましたが、プラスQRコードをつけるということで、そこは共通するので、これをコラボレーションしていったベストミックスを探していくというところ言えば、それぞれに当然経費はかかりますけれども、今までのことを考えれば経費の節約にもつながりますし、言うまでもなく利用者に情報が取りやすくなるということでは、大変良い提案をいただいたものと思っておりますので、すぐにできることをやっていくのと同時に、もし今年度中に間に合わなくても、来年度からできるように準備をしていきたいと思っています。

また、最後に懸案事項にありましたけれども、普及させるためのPRの中で、母子手帳を渡すときに案内すること、それから、母子手帳にQRコードを載せるという提案、それから移住者の方を中心に保健師に案内をしてもらうということも含めまして、全て実現できるものばかりでございますので、なるべく早く速やかに進めていきたいと思っています。

では、ほかの方からもご意見をいただきます。

(若山副市長)

私のように長いこと市役所の職員でいますと、まさに熱海市さんのような、持っている情報をすべて羅列するようなそういう情報提供の仕方をとにかく考えがちです。そういう意味では、本当にわかりやすく情報を発信する仕方としてご提案いただいて本当にありがたいなと思っています。

もう一つ感じたのは、特に子供を妊娠した妊婦さんの時期ですとか、あるいは乳児を抱えている時期のお母さんの不安感というのはものすごいものがあると、自分自身の過去を振り

返ってみてもそんなことを感じるわけですが、そういう意味でお母さんの不安感、孤立感を解消するのも有効な手段なのかなと思っております。

コミュニティ機能までつけていただいたということで、まさにそういうことに資するのかなと。ありがとうございました。

(教育長)

説明のほうが大変わかりやすく、子育てポータルサイトについてはすばらしい発想だなと思います。その中で子供の成長に合わせて情報提供していくというようなことについてはその通りだと思いますし、その中で、遊び場や習い事まで入ってくるということに対しては、すばらしい情報が親にどんどん伝わっていくのではないかと思います。

また、伊東市独自のコンテンツを作っていくということの中で、「ママフレ」ですけれども、例えば「パパフレ」とか、おじいちゃん、おばあちゃんまで入れていくと非常に幅広く、孫の面倒を見るのもなかなか難しい時代になっておりますので、そういうものも伊東市独自で入れていくと、さらに広がっていくかなと思いました。

発想はすばらしいと思います。大変勉強になりました。ありがとうございました。

(市長戦略監)

ありがとうございました。

私も、ポータルサイトは、これからの時代にどうしても必要になってくると考えています。そして、藤枝市の取り組みなんですけれども、私はイベントで藤枝の子育て応援ソングを歌っているキタガワユキという若い歌手がいて、「子供は私たちのみんなの宝だよ」と、そういう歌を作ってイベントのときに必ず歌っているらしいんですね。それで、クリスマスときとか、そういう形で懸念されるPRについても、そういうものにも何か活用できるのかなと思っていますので、伊東市も藤枝市の取り組みの良いところを、藤枝市ばかりではないけれど、全国で一番の子育てのポータルサイトを考えていきたいと思っています。

どうもありがとうございました。

(佐野副市長)

既に皆さんがお伝えしたとおりですが、伊東市独自のコンテンツとして、習い事ですとか遊び場、イベントというところをサイトに載せるというところにすごく感心しているところと、あと、費用の部分も月額15万円という具体的なお提案をいただきましてありがとうございます。

ポータルサイトというのは本当に一番重要で、先ほどのガイドブックと融合させられれば、本当に一番いい形かと思っていますので、さきほど市長も言われましたけれど、具体的な検討をさせていただきたいと思っています。

(企画部長)

市の職員がいつも言われるのは、市民目線で物を考えろと、利用者目線で物を考えろと、さきほど若山副市長も言われましたが、自分たちの目線で、また、縦割りの感覚で情報を出してしまう癖というか、そういう問題があります。

今回は、子育てという切り口の中で年齢別という、まさに市民の利用者の立場に立った情報提供のあり方が示されまして、これは子育てだけではなくて、私たち市の職員がこういう視点を持って仕事をすることが大事ななということを改めて思いました。

私は職務として職員の人材育成ということも担っておりますので、こういう視点を持った職員をこれから一人でも多く育てていきたいと思いました。

ありがとうございました。

(市長)

ありがとうございました。

それでは、次にCグループの発表をお願いします。

(Cグループ発表)

こんばんは。Cグループの発表を始めます。

私たちが提案する施策の名称は、女性をターゲットにした総合専門学校の設立です。

現行の施策に概ね満足しているのですが、新しい観点から、施策を挙げました。今からお話しするフローチャートですが、まず、問題提起としては、少子化によるコミュニティの縮小、こういったことがあると子育てがし難くなるというところです。そのために、総合専門学校を設立すると若年層の人口が増加して出生率も上昇する。それによってコミュニティが拡大し、子育てしやすい環境になるということをお話しさせていただきます。

まず、課題、問題、背景なのですが、伊東市はやっぱり大学進学によって、若年層の人口が年々減っております。そうすると、子供を産む人がいなくなってしまうので、出生率が低下していきます。もうすでにありますが、少子化になります。それで、少子化になると子供の数が少なくなることによって、親も子も狭いコミュニティで生活しなければならなくなるので、情報交換だとか、そういった面でいろいろと子育てし難い側面が出てきます。

次に、小学生と中学生の学校ごとにどのくらい人口が減っていくかというのをグラフにしました。今年の平成29年と平成41年とで、それぞれ人口の減少率を掛けまして数字を出しました。グラフのとおり、やっぱり小学校も、もう川奈小だとかは今年も入学する人がなくて、もうどんどんどん減っていきます。それに伴ってクラス数も1クラスになるところがかなり多くなると思います。

次に中学校です。中学校も南中だとかはやっぱり人数が多いですが、全体的に見てかなり人数が減りまして、それに伴って、こちらもクラス数が2クラスとか1クラスが増えていきます。さきほどお話しした子育てするコミュニティが狭くなると、どういった問題が出てくるかというところですが、まず親の場合は、子供の数が少なくなるとことは親も少なくなっているので、情報交換ができるママ友やパパ友がいなくなる。それで、子育てについて迷ってしまう。子供は人との関わり合いで成長する部分が多いと思いますが、やっぱりその関わり合う人数っていうのが、分母が少なくなってしまうので、子供の考え方が、狭く偏ってしまうのではないかと不安です。子供の場合は友達が欲しくても、同じ学校に少ししか人数がいなくて少なくなってしまうし、あと、例えば気の合わない子だとか、いじめまですりかかっても、からかってきて一緒のクラスになるのが嫌だなど思っている、1クラスしかなければ来年違うクラスになれるかもという希望も持たなくて、学校に行くのが少し嫌になってしまうこともある。このように、親も子も少し苦労してしまうと思いました。

次に、ニーズですが、伊東市の出生率を上げて、親も子も多くの人と関わりを持てる環境を作ることが、先ほどの子育ての不安を取り除いて子育てしやすいまちづくりに繋がると思います。このニーズを満たすためには、出生率を上げなければいけないのですが、そのためには、若年層の人口増加が必須です。この人口増加のために、大学進学による若年層の人口減少を防ぐために、伊東市の総合専門学校を設立するという施策にたどり着きました。

次に、伊東市総合専門学校を設立するに当たっての目的ですが、伊東市から流出する人口を止めることが主な目的なのですが、あとは、近隣市町の住民にも入学してもらい、伊東市の人口の流出を防ぎながら増やしていく。もう1つは、卒業後、伊東市内の企業に就職してもらう。そのために、伊東市が実施することは、まずは、学校法人の誘致、2つ目が学校施設の確保、3つ目が奨学金制度の整備です。

次に、学校法人の誘致ですが、最終的に伊東市で就職をしてほしいので、伊東市で就職ができる学科を設置してくれる学校法人の誘致をしていきたいと思います。学科は、具体的には介護、看護、美容、あとは調理師、栄養士、あとは観光で役立つようなダイビングだとか、伊東市に密着している学科がいいと思います。そのような学科を選んで行くと、どうしても女性の入学生を見込めるような学科が多くなるので、テーマの女性をターゲットにした総合専門学校になっていきます。

次に、公開授業などで地域住民との交流を図りたいので、学校法人に依頼をする必要があると思います。住民が公開授業で学生と交流することも必要だと思いますが、あとは、例えば調理師の学科には、売るような場所を設けて、そこでも地域住民と交流を持つとか、伊東市の人たちと交わることで今後も伊東市に住みたいと思ってほしいと思っています。

次に、学校施設の確保なのですが、新たに建設をするのではなくて、既存の施設を利用すれば費用が掛からないので良いかなと思っています。

具体例としては、使えるかどうかかわからないのですが、旧伊東市民病院で、あとは、今後予定があるかわからないのですが、もし、学校を統廃合した場合に廃校になる学校が挙げられます。

次の3番目になりますが、奨学金制度の整備について、現行で伊東市育英奨学金というのがあって、伊東市Uターン支援制度という制度の中で、伊東市に住所を有する間、返還金の2分の1が免除されるという制度がありますが、この制度自体の伊東市総合専門学校の在学生、卒業生に限って、出願資格の拡大や免除額の増額を行うことで、経済的に進学が難しいような家庭の子も進学することができると思います。

それで、今までの施策で期待される効果ですが、まず人口が増える。就職率も上がる、地域との交流も増える、それによって出生率の増加、コミュニティの拡大により、子育てしやすい街になると思います。今もどんどん人口は減少しているのですが、まだ底をついてないというか、人口を増やすために余力があるうちにこういった施策を行ったほうが良いと思っています。あとは、伊東市から転出をしなくても進学ができて就職するための資格を取得することで、人口の流出を止めることができ、どんどん潤っていくと思います。

次に、懸念事項です。懸念事項は、まず入学者がいるかどうかかわからないので、入学者の確保です。次に、条件と一致する学校法人を誘致できるか。例えば、音楽の専門学校とかが来たいといっても伊東市で就職できないので、そういった場合にどうするのか。あとは、卒業後、伊東市で本当に就職先が見つかるかです。これに対しては、対応策として、あらゆる媒体で伊東市や近隣市町村にも周知を図る。あとは、学校法人が名乗り出たときに、学科等

で譲れる範囲と譲れない範囲をあらかじめ定めておく。最後に、卒業生と市内の企業を結びつける就労支援を市のほうで整備するという対策もあると思います。

最後にまとめます。総合専門学校を設立することによって、若年層の人口増加や出生率が上昇し、コミュニティが拡大することによって、親が子育てしやすい環境になり、子の不安も取り除けるので、子供が増えることで親同士の情報交換も増えますし、さまざまな家庭があることで、子育ての相談をしやすいママ友やパパ友が見つかる可能性もあると思います。今、自分自身も5時15分まで仕事をして帰るんですけど、最近、夫が帰ってくるのが12時過ぎで、そういった相談を友達にしたいけども、なかなか同じ環境の人はいないので、困っているんです。ただ、家庭が増えればそういったところも出てきて話しやすいとも思っています。子ども自身にもいろいろな友達ができて、成長していく上でもすごくいいことだと思います。

以上です。ありがとうございました。

(市長)

ありがとうございました。

Cグループの方は、今まで提案いただいた2つのグループとは違う視点からご提案をいただき大変参考になりました。

課題、背景のところでも述べられている、大学進学により働く場所がなくなって若年層が減っている、また、人口減少によってコミュニティが狭くなっているということについては、まさに伊東市の課題でして、これまでも大学を誘致するという事は検討の俎上にあつたかとは思いますが、総合専門学校というのは意外になく、その考え方は、とても斬新ではないかなと思います。

また、具体的には、何を目指して資格を取るかというものに、女性が目指すべきものが良いではないかということの提案をいただいたということで、すでに学校を卒業していても資格を取りたいという方もたくさんいらっしゃいます。そういう方や、また、移住したいというときに資格がなくてというときに奨学金制度があると、さらに、伊東に定住してくれた場合には返済の免除額を一定程度拡大するという事は、これは私の公約でも奨学金の全額返済免除というのも考えていますので、その中で女性をターゲットにしたというのはすばらしいことではないかなと思っております。これを実行するのに、課題というのは幾つもあります。学校法人をどのように誘致するのかということ、専修する学科をどこまでこちらから要望として言えるのかということ、幾つもの課題はありますが、私自身がいろいろな会議に、もちろん伊東市外にも出て出席する場でいろいろ方と出会っていますので、その中で今ご提案いただいたことを一人一人に投げかけていくと、必ず道は開けてくると思いますので、まず皆さんからいただいた提言をもとに人口減少対策の突破口として考えていきたいと思っておりますので、検討の俎上に上げていきたいと考えます。

それでは、他の方からもご意見をいただきます。

(若山副市長)

本当に久しぶりに学校を誘致するというテーマをお聞きして、何か斬新な思いをいたしました。この市役所がこの場所に移ってきた直後、私は企画の部署にいまして、そのときに秋田の大学の役員をやっている方が、自分がお持ちになっている土地に市が大学を建てろという、かなり無理な要望を出してきました、その方とやり取りをする中で、伊東市に大学を誘

致しても学生が集まるのかなということで非常に悩んだ思いがあります。その話は実現しなかったのですが、今回のご提案のカギは、卒業後に伊東市で就職できるというところに絞って狙っているところがすばらしいところだと思います。専門学校を卒業された方が市内で就職できる、そういう資格を身に付けられるような学校ならば、十分に実現できる可能性があるのかなと思っています。

ありがとうございました。

(教育長)

新しい視点をいただきまして、自分もそのとおりだと思います。その中で、専門学校の誘致ということについては、発想もいいし実現できればいいかなということを思っています。

それで、今、県内に14校の大学があり、静岡大学ですとか東海大学など含めてあり、短大が5校ある状況なんですけれども、専門学校については幾つあるか自分には記憶がないんですけれども、伊東市にそういう学校があるとすばらしいなと思いますし、静岡県の教育委員会も実学ということに力を入れていまして、要するに、パティシエですとか大工さんですとか、そういう手に職を持っている方の育成ということに非常に力を入れている状況がありますので、非常にマッチしたご提案ではないかと思ひまして本当にすばらしい発想でびっくりしました。

今後、自分も勉強していきたいと思います。ありがとうございました。

(市長戦略監)

子育て支援という切り口なのですけれども、この専門学校なり大学誘致をすると、今、伊東市の抱えている問題がかなり解決できると思う。その一つは、有効求人倍率が2をずっと超えていまして、働き手がない。旅館なんか働き手がないので、部屋を全部開けられないとか、そういう問題が伊東市だけでなく伊豆半島全体にあります。

その中で、学生が来れば当然アルバイトしますので、旅館やホテル、また、コンビニエンスストアなんか十分な人材が確保できるのかなあという希望があります。

一昨日、地域タウンミーティングというのがあって県知事が話をしたのですが、同じ温泉場の大分県別府市で立命館大学アジア太平洋学部がありまして、外国人の方が非常に多く、そうすると、やはり外国人の方が日本語を勉強するためにいろいろな話をして、当然、日本人の方も外国語を喋れるようになるし、外国人の学生さんも市内のあらゆるところでアルバイトをすると、それに求めて安心して外国人の観光客の皆さんがいっぱいやって来ると、そういうことも言っていました。これは本当に実現できれば伊東市にとって本当に大きなものになっていくと思いますので、伊東市はこれから伊豆半島の中心となって生き残っていく、そして、頑張っってやっていくためにはこういう施策が必要だと思いますので、ぜひ、検討させていただきたいと思います。

ありがとうございました。

(佐野副市長)

感想になってしましますが、まず、着眼点のすばらしさがあります。

私は県からの派遣でおりますが、実は、昨年、県内における観光人材の育成に力を入れていこうと、そうでないと地域間競争に勝てないということもありまして、県として、一生懸

命観光人材の育成に取り組もうということで、まさに、こういった学校法人の誘致であるとか、観光学科の創設みたいなことをずっと検討していたところがありました。

その中で、この資料の中の学校法人の誘致という中で、伊東市で就職できる学科を創設できる学校法人の誘致ということがありましたので、ここも少し質問させていただこうと思いましたが、具体的な検討もしてくださっている中で、観光という話もあったので、そういう意味で、こういう発想が自分たちにはなかったなということですのでごく感心しております。

公開授業や地域住民との交流という観点も含まれておりますし、さらに、既存施設の活用ということで、今、国でいろいろと問題となっているところでどうしてもハード整備という発想が優先してしまうところもあると思いますが、既存施設の整備と活用というところが非常にいい発想だなと思感心しているところでもあります。

ありがとうございました。

(企画部長)

子育ての問題をコミュニティの縮小というところに思い立ったというところで既に勝負ありかなというふうに思います。アイデアの勝利かなと思います。

コミュニティが縮小することによって、子育てがし難くなる。それだけでなく、伊東市が誰にとっても住み難い街になってしまうという点で、この大学を基盤としたコミュニティ拡大というのは、冒頭でも申し上げましたとおり、伊東市の今後の移住・定住施策の一つの柱として位置付けることができるのではないかと考えます。

伊東市は、子育て以外にも移住・定住のいろいろなプランをメニューとしてそろえてはいますが、この専門学校の誘致ということも施策の一つの柱になるかどうか検討しまして、できればプランの中に入れて込んでいければと思います。

ありがとうございました。

(市長)

Cグループの皆さま、ありがとうございました。

これですべてのグループの発表が終わりました。

皆様からの貴重な提案を頂戴することができまして大変参考になりました。繰り返しになりますけれども、今回提案していただいた施策を、今後、子育て支援・教育支援施策に反映していきたいと固く思っております。

続きまして、次回について皆さんが考える未来ビジョン会議の今後についてご意見を頂戴したいと考えております。今回で6回を終えたわけですが、次にこのようなテーマを未来ビジョン会議で検討してほしい、または意見交換や今日まで進めてきたグループワーキング、これを中心にした中で会議を進行した方がいいのではないかという声を集めたいと思います。

まだまだこの会議も始めたばかりですから、皆さんにとってもまだ分かりにくい部分もあると思いますし、もっとこういうふうに進めたいよという声があったほうが良いと思います。ですから、次の会議ではこれからの進め方を皆さんからご意見をいただく会にしたいと思っておりますので、ぜひ、ご検討の上、参加していただきたいと思っております。

長時間にわたりましたがけれども、本日は大変実りのある会議となりましたことを心から感謝を申し上げます、座長を降ろさせていただきます。

ありがとうございました。

(事務局)

事務局から会議の開催日程についてご案内をさせていただきます。

年内は残り2回となりました。次回は11月27日の月曜日、時間は午後7時から8時半、その次が12月19日火曜日、時間も同じく午後7時から8時半となっております。

また、開催通知を送らせていただきますのでよろしくお願いいたします。

以上となります。

本日の未来ビジョン会議はこれで終了させていただきます。

# ・子育て支援・教育施策の プロモーション強化大作戦！

・ Aグループ

※委員の氏名は非公開  
でお願いいたします

# 提案する政策の内容

- ①子育て支援・教育施策に特化したガイドブックの作成
- ②事業進捗状況の看板設置

# ①ガイドブックの作成 ～島根県川本町を例に～



## 地域に見守られながら安心して子育てできる環境 川本町での子育て

川本町では、地域住民が一体となった子育て環境づくりを実践しており、地域の指導者によるジュニアスポーツクラブや公民館活動に加え、子どもの医療費助成などの支援制度も充実しています。子育てサポートセンターでは、在宅児家庭向けの交流スペースや放課後の子どもの居場所づくり、地域の「もの・ひと・こと」とふれあう体験活動に取り組んでいます。また、悠色ふるさと会館内のかわもど図書館では、「移動図書」や「絵本の読み聞かせ」などの読書普及活動も盛んです。町内には総合病院もあり、近隣には24時間対応の救急医療機関である公立病院があります。



川本町での子育て ©川本町教育課

## 少人数だからこそ魅力 保・小・中・高を通じた連携教育 川本町の教育環境

町内には3カ所の保育所のほか、小学校、中学校に加え、ユネスコスクールにも認定されている県立高校があり、世代間交流や地域との触れあいの機会を多く取り入れた特色ある教育を行っています。

### 川本・因原・川本北保育所 体験を通じて学ぶ、元気を根っこづくり



▶完全給食の実施 ▶ALTによる英語遊びや外部講師による運動・美術指導 ▶田植えや川遊びなどの自然環境を活かした様々な体験学習 ▶土曜保育・延長保育・一時保育・障がい児保育に対応 ▶保育料の第1子特減・第2子以降無償化などの充実した支援制度

### 川本小学校 心豊かにたくましく、進んで取り組む子どもの育成



▶全ての児童が主体的に学ぶ「学び合い授業」 ▶学習支援員による学習サポートの充実 ▶地域の特産品を活かした学校給食による食育推進 ▶地域に学ぶふるさと教育の充実 ▶国語科10冊の活用 ▶専任ALTの配置 ▶電子黒板・タブレット端末を活用したICT教育

\*ALT(Assistant Language Teacher)の略。英語の授業で日本人教師を補助する外国語指導助手。

川本町教育課

## 充実の支援制度が移住後の暮らしをバックアップ 支援制度一覧

それぞれの助成・支援制度について要件等がございますので、詳しくは、下記連絡先までお問い合わせください。  
川本町役場 まちづくり推進課 ☎0855-72-0634

- 保育料の軽減・無料化  
第1子(3歳未満児)の保育料を1/3軽減、第2子以降の保育料が無料。  
▶保育所完全給食化  
町内全保育所で地元産の採りたてごはんを提供する完全給食を実施。
- 子どもの医療費助成(乳幼児等医療費助成制度)  
①乳幼児、小・中学生の入院・通院・薬代費が無料。(小・中学生は、平成29年5月1日より)  
②20歳未満の特定14疾患等に係る入院費が無料。(平成29年5月1日より)
- まげなフリーパス  
町内の公共施設やスクールバス、温泉などを無料で使用できるフリーパスを発行。  
(対象:町内在住の小・中・高校生)
- 妊婦健診助成  
妊婦一般健診14回の受診費を支付。(県内:無料 県外:上乗あり)
- 特定一般不妊治療費助成  
不妊治療費等の一部を助成。
- 乳児一般健診費助成  
生後1ヶ月・9～11ヶ月に受けていただく受診費を支付。(県内:無料 県外:上乗あり)
- 新生児聴覚検査助成  
新生児聴覚スクリーニング検査の費用が無料。
- 歯科対策助成  
フッ素塗布・フッ素歯口費用が無料。(対象:3歳児～中学生)
- インフルエンザ予防接種助成  
高校生以下のインフルエンザ予防接種費用が無料。
- チャイルドシート購入費助成  
1台につき購入価格の1/2を助成。(上限:1.5万円)
- 自転車ヘルメット購入助成  
1個につき購入価格の1/2を助成。(上限:2千円)
- 学習監助成(「自らの学び応援事業」)  
町内の学習塾等への経費の一部を助成。
- 英検助成(「自らの学び応援事業」)  
英検検定を受験する費用の全額を補助。(同一親年度内1回)
- 通学助成(「選距離通学費支給制度」)  
小学生(通学距離:4km以上)、中学生(通学距離:6km以上)の定期券等を支給。
- 就学援助制度  
経済的理由で児童生徒の就学が困難な状態に対して、学校給食費を補助。
- 就学奨励費制度  
障がいのある児童生徒の学校関係経費を家庭の経済状況等に応じて補助。
- 夢と可能性に挑戦する人財定住助成事業  
①高校卒業後就職し、川本町に居住した場合は生活津貼金として50万円を支付。  
②奨学金を借入し、卒業後10年以内に就職し、川本町に居住した場合は奨学金返済期間内での年助成金を支付。  
(上限:24万円/年(大学)・12万円/年(短大等) 期間:10年)



- ヤマトふるさと島根定住財団「引越制引サービス」  
島根への引越費用を支援し、引越料金の25%割引などのサービスを受けることができます。(期間:3月15日～4月15日を除く)
- しまね子育て応援パスポート「COCCOLO」  
協賛店において、商品の割引・ポイントカードのポイントアップ、商品のプレゼント、子育て関連情報の提供などのサービスを受けることができます。

## 四季折々の自然と文化が調和する 川本町の自然・文化・歴史



川本町は、中山間地に位置するため比較的地味が豊しく、一年を通じて変化に富んだ景観が楽しめます。多湖地域のふるさと館としても知られる高松荘ですが、川本町は町内を縦貫する「江の川」の影響で、水質が豊かです。また、川本町は、中山間地ならではの自然環境を、一年を通じて楽しむことができます。また、川本町は、中山間地ならではの自然環境を、一年を通じて楽しむことができます。また、川本町は、中山間地ならではの自然環境を、一年を通じて楽しむことができます。

# ①イラストや写真を使用 簡潔な文章での制度紹介

- 1行程度で制度の紹介
- QRコードを付け、詳細情報取得・ダウンロード可能とする

充実の支援制度が移住後の暮らしをバックアップ

## 支援制度一覧

それぞれの助成・支援制度について要件等がございますので、詳しくは、下記連絡先までお問い合わせください。  
川本町役場 まちづくり推進課 ☎0855-72-0634

### ●保育料の軽減・無料化

第1子(3歳未満児)の保育料を1/3軽減、第2子以降の保育料が無料。

### ●保育所完全給食化

町内全保育所で地元産の炊きたてごはんを提供する完全給食を実施。

### ●子どもの医療費助成〈乳幼児等医療費助成制度〉

①乳幼児、小・中学生の入院・通院・薬局費が無料。(小・中学生は、平成29年5月1日より)  
②20歳未満の特定14疾患群に係る入院費が無料。(平成29年5月1日より)

### ●まげなフリーパス

町内の公共施設やスクールバス、温泉などを無料で使用できるフリーパスポートを発行。  
(対象:町内在住の小・中・高校生)

### ●妊婦健診助成

妊婦一般健診14回の受診票を交付。(県内:無料 県外:上限あり)

### ●特定・一般不妊治療費助成

不妊治療費の一部を助成。

### ●乳児一般健診費助成

生後1ヶ月・9～11ヶ月に受けていただく受診票を交付。(県内:無料 県外:上限あり)

### ●新生児聴覚検査助成

新生児聴覚スクリーニング検査の費用が無料。

### ●歯科対策助成

フッ素塗布・フッ素歯口費用が無料。(対象:3歳児～中学生)

### ●インフルエンザ予防接種助成

高校生以下のインフルエンザ予防接種費用が無料。

### ●チャイルドシート購入費助成

1台につき購入価格の1/2を助成。(上限:1.5万円)

### ●自転車ヘルメット購入助成

1個につき購入価格の1/2を助成。(上限:2千円)

### ●学習塾助成〈自らの学び応援事業〉

町内の学習塾等への経費の一部を助成。

### ●英検助成〈自らの学び応援事業〉

英語検定を受検する費用の全額を補助。(同一級同年度内1回)

### ●通学助成〈遠距離通学費支給制度〉

小学生(通学距離:4km以上)、中学生(通学距離:6km以上)の定期券等を支給。

### ●就学援助制度

経済的な理由で児童生徒の就学が困難な世帯に対して、学校関係経費を補助。

### ●就学奨励費制度

障がいのある児童生徒の学校関係経費を家庭の経済状況等に応じて補助。

### ●夢と可能性に挑戦する人財定住助成事業

①高校卒業後就職し、川本町に居住した場合に生活準備金として50万円を交付。  
②奨学金を借入れ大学等に進学し、卒業後10年以内に就職、川本町に居住した場合に奨学金返済額範囲内で毎年助成金を交付。  
(上限:24万円/年(大学)・12万円/年(短大等) 期間:10年)

### ●ヤマト×ふるさと鳥根定住財団「引越割引サービス」

☎ <http://www.kurashimanet.jp/lifestyle/support/yamatohomekonbini.html>  
高根県へのUターン希望者を対象に、引越料金の25%割引などのサービスを受けることができます。(繁忙期3月15日～4月15日を除く)

### ●しまね子育て応援パスポート「COCCOLO」

☎ <http://www.pref.shimane.lg.jp/education/syoushika/syoushika/parntenv/coccolo/>  
協賛店において、商品の割引、ポイントカードのポイントアップ、景品のプレゼント、子育て関連情報の提供などのサービスを受けることができます。

## ②新生児から中学生まで世代別に整理されたページ構成

- それぞれ年代別に必要とされる補助・助成等をまとめ、表等を添付し、一挙に情報を取得できるようにする。

少人数だからこそ魅力 保・小・中・高を通じた連携教育

### 川本町の教育環境

町内には3カ所の保育所のほか、小学校、中学校に加え、ユネスコスクールにも認定されている県立高校があり、世代間交流や地域との触れあいの機会を多く取り入れた特色ある教育を行っています。

川本・因原・川本北保育所 体験を通じて学ぶ、元気を根っこづくり



川本小学校 心豊かにたくましく、進んで取り組む子どもの育成



▶完全給食の実施 ▶ALTによる英語遊びや外部講師による運動・美術指導 ▶田植えや川遊びなどの自然環境を活かした様々な体験学習 ▶土曜保育・延長保育・一時保育・障がい児保育に対応 ▶保育料の第1子軽減・第2子以降無料化などの充実した支援制度

▶全ての児童が主体的に学べる「学び合い授業」 ▶学習支援員による学習サポートの充実 ▶地域の特産品を活かした学校給食による食育推進 ▶地域に学ぶ「ふるさと教育」の充実 ▶図書館司書の常駐 ▶専任ALTの配置 ▶電子黒板・タブレット端末を活用したICT教育

\*ALT……Assistant Language Teachers(略) 英語の授業で日本人教師を補助する外国語指導助手。

### ③公園や病院などの 施設情報の掲載

- 公園や病院、コミセン等の公的機関、保育園や学校などの開館時間や地図等を写真やイラストを用いて、添付する。



# ④ 支援制度活用向上のための 必要申請書類の添付・記載例付

- パンフレットに添付し、QRコード等でもダウンロード可能とする

第1号様式（第4条、第10条関係）  
保育所等入所申込書（現況届）兼多子軽減申請書兼施設型給付費・地域型保育給付費等支給認定申請書

平成 年 月 日 理由する日記入  
伊東市長 届

次のとおり、施設型給付費・地域型保育給付費に係る支給認定を申請します。

保護者氏名 伊東 市郎 印

申請に係る 小学校就学前 子ども	氏名（ふりがな） いとう たろう	生年月日 平成 年 月 日 生	性別 男・女	障害者手帳 有・無
保護者 住所・連絡先	(住所) 〒 (連絡先) 自宅電話番号 父携帯 母携帯			
保育の希望の有無（※）	有：保護者の労働又は疾病等の理由により、保育所等において保育の利用を希望する場合（延長型と併用の場合を含む） 無：幼稚園等の利用を希望する場合（保育所等と併用の場合を除く）			

①世帯の状況（住居費上、別世帯又は別居しているお子さんがいる場合は必ず記入して下さい。多子軽減制度により、保育料が軽減される場合があります。）

区分	氏名	親類との続柄	生年月日	性別	職業 又は 学校名等	備考	マイナンバー（12桁）
			年 月 日 生	男・女			
			年 月 日 生	男・女			
			年 月 日 生	男・女			
			年 月 日 生	男・女			
			年 月 日 生	男・女			
			年 月 日 生	男・女			

生活保護の適用の有無 適用無し・適用有り（平成 年 月 日保護開始）

2.利用を希望する期間、希望する保育所名

利用を希望する期間 平成 年 月 日から 平成 年 月 日まで

利用を希望する 保育所名	保育所名・希望理由
第1希望	
第2希望	
第3希望	
第4希望以上の保育所	□あり（ ） □なし

認可外保育所・幼稚園 □在園（ ） □申込予定あり（ ） □申込予定なし

○「記入上の注意」をよく読んでから記入して下さい。  
○字は楷書ではっきりと書いて下さい。

第1号様式（第4条、第10条関係）  
保育所等入所申込書（現況届）兼多子軽減申請書兼施設型給付費・地域型保育給付費等支給認定申請書

平成 年 月 日 理由する日記入  
伊東市長 届

次のとおり、施設型給付費・地域型保育給付費に係る支給認定を申請します。

保護者氏名 伊東 市郎 印

申請に係る 小学校就学前 子ども	氏名（ふりがな） いとう たろう	生年月日 平成 年 月 日 生	性別 男・女	障害者手帳 有・無
保護者 住所・連絡先	(住所) 〒414-0046 伊東市大原2-1-1 伊東アパート101号 (連絡先) 自宅電話番号 36-0111 父携帯 母携帯			
保育の希望の有無（※）	有：保護者の労働又は疾病等の理由により、保育所等において保育の利用を希望する場合（延長型と併用の場合を含む） 無：幼稚園等の利用を希望する場合（保育所等と併用の場合を除く）			

①世帯の状況（住居費上、別世帯又は別居しているお子さんがいる場合は必ず記入して下さい。多子軽減制度により、保育料が軽減される場合があります。）

区分	氏名	親類との続柄	生年月日	性別	職業 又は 学校名等	備考	マイナンバー（12桁）
伊東 太郎	本人	●●●●●●●●	●●●●●●●●	男	無職		
伊東 市郎	父	●●●●●●●●	●●●●●●●●	男	伊東銀行	同席	
伊東 花子	母	●●●●●●●●	●●●●●●●●	女	城ヶ崎商會	同席	
伊東 真部	祖父	●●●●●●●●	●●●●●●●●	男	大原商店	同席	
伊東 松子	祖母	●●●●●●●●	●●●●●●●●	女	無職		
伊東 三郎	兄	●●●●●●●●	●●●●●●●●	男	大学生	別席	

生活保護の適用の有無 適用無し・適用有り（平成 年 月 日保護開始）

利用を希望する期間 平成30年 4月 1日から 平成31年 3月31日まで

利用を希望する 保育所名	保育所名・希望理由
第1希望	秋洲美保育園 (希望理由) 員地に近いため
第2希望	八幡野保育園 (希望理由) 母の勤務先に近い
第3希望	富士見保育園 (希望理由) 母の通勤途中にある
第4希望以上の保育所	□あり（ 瀬川・萩 ） □なし

認可外保育所・幼稚園 □在園（ ） □申込予定あり（ ） □申込予定なし

○「記入上の注意」をよく読んでから記入して下さい。  
○字は楷書ではっきりと書いて下さい。

# 期待される効果

①情報が一元化されることにより、多数あるパンフレット・チラシ等が削減できるとともに、市民への認知度向上につながる。

②伊東市に移住する人についても、ガイドブック一冊で子育て・教育支援に関する情報が得られる。

## ②事業進捗状況の看板設置

- 市役所の市民ロビーに事業の進捗状況が把握できる看板を設置。
- 毎月更新していく。



市民が一目で利用状況を確認できる

事業の効果が把握しやすくなる

# 懸念事項と対応策

- ①ガイドブック作成にかかるコスト  
(@500円 × 10,000冊 = 5,000,000円)を見込んでいる。
- ②子育て・教育施策事業の内容変更や新規事業を創設した際の周知方法  
→QRコードを添付することで、Web上で最新情報を取得できるようにする
- ③ガイドブックを設置してもらえる協力事業所の選定  
→伊東市医師会などを通じ、声掛け

# 政策発表表

【グループB】

※委員の氏名は非公開  
でお願いいたします

# 0.目次

1. 政策名称
2. 課題・問題点・ニーズ
3. 提案する政策の内容
4. 期待される効果
5. 懸案事項と対応策

# 1.政策の名称

子育て支援ポータルサイト  
(仮)

# 2.課題・問題点・ニーズ

子育て支援・教育施策一覧(現在、検討中です)

No.	区分	事業名	事業概要
1	新規	教育支援事業（通学費補助）	・遠距離通学児童生徒の通学費を補助することで、本市に居住する児童生徒の保護者の経済的負担を軽減し、円滑な進学を図る。
2	新規	子育てサロン事業	・安心して子育てができる環境や子育て中の親子が集い場を確保し、地域における子育て力を高める ・市内の公共施設や店舗等で育児不安を抱える妊産婦に対して、「話し相手」となる集団式相談支援。 ・子育て経験者や専門職が相談を実施する。
3	新規	ペーパーシート設置事業	・市内公共施設、商店街等に案内・トイレ内、おむつ替え用ペーパーシートを設置
4	新規	子育て応援情報集約・発信事業	・本市の様々な子育て情報を1つにしたガイドブックを作成するとともに、同様の内容を配信するコンテンツを作成
5	新規	ひとり親家庭放課後児童クラブ利用支援事業	・県がひとり親家庭の児童を対象に、放課後児童クラブの利用料を軽減するため補助制度を創設。この制度を活用し、本市の利用料を助成。
6	新規	青少年育成活動応援事業	・生涯学習及びスポーツ活動を行う団体で未来を担う青少年活動の推進及び普及、発展を目的に活動する団体に補助する制度。 対象はスポーツ少年団加盟団体や合唱団が考えられるが、中学生のクラブ活動認定団体も視野に入れ検討。
7	新規	青英奨学制度充実事業	・伊東市青英奨学金条例に基づき、経済的理由により修学困難な者に奨学金を貸与する。 ◆高校生等 月額奨学金上限額：30,000円 入学一時金上限額：300,000円 ◆大学生等 月額奨学金上限額：50,000円 入学一時金上限額：600,000円 ◎半額免除制度 卒業後伊東市内に居住することで返還金の半額を免除する。
8	新規	保育人材育成支援事業	・保育士不足が進む中、私立保育園に保育人材育成を委託し、保育人材の確保を図る。
9	新規	市立幼稚園預かり保育事業	・子育て支援環境向上のため、在園児の保護者が就労・疾病・家族の介護等により園児の保育ができない場合に、正規の教育時間終了後に引き続き園児を園内で預かる事業を実施。（富士見分園にて、4時30分～5時 夏休み7月のみ～8月も実施）
10	新規	市立幼稚園預かり保育開設準備事業	・認可外保育施設130新規実施地区（富士見分園）開設に係る経費（保育室、遊戯室空調、フラインド、テレビ、お昼後用具等解説準備経費）
11	新規	私立幼稚園施設型給付費（5歳児無償化）	・私立幼稚園への施設型給付費の支出（園児数に応じた給付費の支出、5歳児無償化）
12	新規	私立幼稚園一時預かり委託事業	・私立幼稚園への一時預かり事業委託費の支出
13	新規	子育て支援医療費助成事業	・中学校終了前の児童を養育している保護者に対し医療費を助成 中学校終了までを18歳まで拡充 ・小児がん・がん・無胎・2歳児以上中学校終了前の3月末まで→病院：1回500円のみ自己負担（月4回まで）入院：無料
14	新規	奨学奨励及び奨学奨励事業	・進学困難な児童生徒の保護者に対する奨励金・特別支援教育奨励金 ※※2名の拡大事業
15	新規	中学校部活動補助事業	・市内中学校（6校）での部活動における試合・コンクールへの交通費、器材等運搬費・指導費等への補助。 （文化系：活動費用の割1,500円（1回250円） 運動系：活動費用の割500円（1回250円）円家活動費用の約2割）
16	新規	待機児童削減サポート事業	・待機児童の削減を目的として、認可外保育施設、企業主導型保育事業等の利用者の保育料負担の軽減を行うための補助金を支出 ①認可外保育施設、企業主導型保育事業等として待機児童を受け入れた場合、施設利用料と市保育所保育料との差額を補助金として各施設に交付。 ②認可外保育施設において、待機児童を受け入れた場合は、運営助成金を支出。
17	新規	妊産婦歯科診療事業	・妊娠期間中つわりやホルモンバランスの変化により口腔環境の変化が起きやすく、早産・低体重児出生の妊婦は歯周組織の健康状態に問題がある例が多いとされている。また出産後は、身体的、心理的、社会的負担等により、歯科治療が必要にもなり後回しになる傾向がある。そのため早期に歯周疾患を見出し治療に繋げることで、安心安全な出産を支援するために妊産婦歯科診療を実施。
18	既存	健康COMEBおむつ推進事業	・歯科衛生士、管理栄養士による、「むちむち」ことの大切さについての講座を実施。保育園、幼稚園、小学校
19	既存	児童が心身ともに健やかに育成するため、家庭児童相談業務、虐待防止活動等を通じて、指導・調査・ケースの処遇を行う。家庭児童相談業務、虐待防止対策、子育て短期支援事業	
20	既存	伊東っ子誕生祝金事業	・本市の子どもとして誕生したことをお祝いし、健やかに育つことを願い、祝金を贈呈。（第1子5万円、第2子4万円、第3子以降3万円）
21	既存	ファミリーサポートセンター運営事業	・育児の援助を行いたい人が、講習会を受講し、提供員として援助を受けた人の子どもの預かり等を行う。
22	既存	ひとり親家庭支援事業	・母子・父子自立相談支援事業：支援員によるひとり親家庭の就業・自立に向けた相談に応じる。 ・産前産後相談事業：産前産後に関する必要支援情報に関する相談支援を一部助成。 ・自立支援訓練給付事業：資格取得の受講を終了した者に就労支援金として助成。 ・ひとり親家庭就学費用助成事業：小学生就学児童がいるひとり親家庭に、ランドセル等の購入費に対して上限3万円を助成 ・ひとり親家庭子育てサポート利用料助成事業：ファミリーサポートセンター事業の利用に対して、利用料の半額を助成
23	既存	不妊治療費助成金支給事業	・少子化対策の一環として、不妊治療の経済的負担の軽減を図るため、不妊治療を受けた夫婦に対して助成金を支給。 補助率100%、回5/10、回5/10、回5/10、回5/10、補助率7/10、助成限度額120万円、助成回数：回別制限なし。 ●母子保健型利用者支援事業 ・妊娠、出産、子育ての悩みに対し保健師等専門職を1～2名配置し、相談支援を実施 ・妊娠経過を通して、全ての妊産婦の状況を把握し、必要な支援の選定と情報提供を行い、必要な妊婦には支援計画を作成する。 ●産科ケア事業（シニアケア、ピアサポート事業） ・退院直後の母子に対し、市内産科医療機関等で専門職による心身のケアや育児のサポートを行う訪問型と日帰り型サービス・利用者負担あり。 ●産前産後サポート事業（家庭訪問型子育て支援事業） ・育児不安やストレス軽減を図るため、産後経過を修した子育て支援員が子育て中の親子を訪問する。 ●産前産後サポート事業（子育てサロン事業） ・市内の店舗等で同じ悩みを持つ妊産婦に対し子育て経験者や専門職が「話し相手」となる集団式相談支援 ●親子保健型保育事業 ・教育、医療機関、行政保健師が中学、高校生を対象に「妊娠出産の正しい知識」「母子女性を育む」親子準備教育を学校で実施。 ・思春期保健相談や、関係機関との連絡会を実施 学校教育法第19条及び学校保健安全法第24条に基づき、経済的理由により就学困難な児童及び生徒の保護者に対する援助 1 援助対象者 ※①は要保護のみ国庫補助の対象 ① 1 要保護児童生徒（生活保護世帯） ② 要保護児童生徒（市県民税非課税世帯等、生活保護に準ずる世帯） 2 援助の種類 ・学用品及び通学用品費：全年対象（小学校1,420円・中学校22,320円） ・通学費：特別支援学級に在籍する児童生徒の定期代等実費 ・学校給食費：給食費実費 ・修学旅行費：修学旅行費実費（修学旅行費実費） ・修学旅行費：修学旅行費実費 ・医療費：疾病の治療に必要な医療費自己負担分実費 ・校外活動費：学校行事として実施の校外活動の交通費、見学料 ・新入児童生徒学用品費：新入学生のみ対象（小学校40,600円、中学校47,400円）
24	既存	地域少子化対策強化事業	●産前産後サポート事業（家庭訪問型子育て支援事業） ・育児不安やストレス軽減を図るため、産後経過を修した子育て支援員が子育て中の親子を訪問する。 ●産前産後サポート事業（子育てサロン事業） ・市内の店舗等で同じ悩みを持つ妊産婦に対し子育て経験者や専門職が「話し相手」となる集団式相談支援 ●親子保健型保育事業 ・教育、医療機関、行政保健師が中学、高校生を対象に「妊娠出産の正しい知識」「母子女性を育む」親子準備教育を学校で実施。 ・思春期保健相談や、関係機関との連絡会を実施 学校教育法第19条及び学校保健安全法第24条に基づき、経済的理由により就学困難な児童及び生徒の保護者に対する援助 1 援助対象者 ※①は要保護のみ国庫補助の対象 ① 1 要保護児童生徒（生活保護世帯） ② 要保護児童生徒（市県民税非課税世帯等、生活保護に準ずる世帯） 2 援助の種類 ・学用品及び通学用品費：全年対象（小学校1,420円・中学校22,320円） ・通学費：特別支援学級に在籍する児童生徒の定期代等実費 ・学校給食費：給食費実費 ・修学旅行費：修学旅行費実費（修学旅行費実費） ・修学旅行費：修学旅行費実費 ・医療費：疾病の治療に必要な医療費自己負担分実費 ・校外活動費：学校行事として実施の校外活動の交通費、見学料 ・新入児童生徒学用品費：新入学生のみ対象（小学校40,600円、中学校47,400円）
25	既存	児童学級助成事業	・学用品及び通学用品費：全年対象（小学校1,420円・中学校22,320円） ・通学費：特別支援学級に在籍する児童生徒の定期代等実費 ・学校給食費：給食費実費 ・修学旅行費：修学旅行費実費（修学旅行費実費） ・修学旅行費：修学旅行費実費 ・医療費：疾病の治療に必要な医療費自己負担分実費 ・校外活動費：学校行事として実施の校外活動の交通費、見学料 ・新入児童生徒学用品費：新入学生のみ対象（小学校40,600円、中学校47,400円）
26	既存	必須児童保育園一時預かり事業	・待機児童削減や一時的な保育利用者のために、就園前の幼児児を対象とする一時預かり事業を実施 （利用料 平日1,000円、日1,800円 利用定員 最大10人（1～2才））
27	既存	私立保育園関係経費（運営補助事業）	私立保育園関係、小規模保育事業関係における一時預かり、延長保育など、保育ニーズへの対応に必要な運営事業に補助 ①一時預かり・延長保育・夜間保育に該当していない私立保育園で一時預かり・延長保育 ・多様な保育推進事業：1・2歳児入所児童に対する補助 ・年度途中入所サポート事業：待機児童解消のための保育士雇用事業 ・育児充実事業：0歳～3～5歳児入所児童に対する補助 ・借入金金利補助事業：伊東市民間保育所施設整備費借入金金利補助金交付要綱に基づく事業
28	既存	育児保育委託事業（病児・病後児対応型）	・病児や病後回復期の児童を、仕事等により家庭で保育することが困難な場合に、一時的に保育を行うもの。
29	既存	認可外保育施設利用料補助金	・待機児童削減のため、認可外保育施設に園児を預ける保護者に補助金支出（利用枠：3人以内、助成額：月額20,000円を上限）
30	既存	放課後児童健全育成委託事業	・放課後児童クラブ（8クラブ）に対する運営を委託するための委託費用 ・128箇所小学校区で1クラブ増設 ・129箇所小学校区で1クラブ増設（予定）

← こんなにも充実した子育て支援・教育施策があるのに...

● **子育てについて、欲しい情報**が欲しい時に**得られない**

● **家で手軽に情報が得られない**

### 3.提案する政策の内容

## 『子育て支援ポータルサイト (仮)』

- |                |               |
|----------------|---------------|
| 【目標】           | 子育て情報の一元化     |
| 【実施事項】<br>立ち上げ | 子育て支援ポータルサイトの |
| 【期間】           | 永続的に実施        |
| 【費用】           | 月額15万円～       |



### 熱海市のオススメ

#### 『子育てタウン』アプリが待望のリニューアル！



『子育てタウン』アプリがさらに役立つアプリへとバージョンアップします！アプリの利用で、"子育てに欠かせない地域の行政サービス"を漏れなくチェックしましょう！

[『子育てタウン』アプリ待望のリニューアルです！](#)

### 熱海市立図書館フェアを開催します！！



2016年11月12日（土）・13日（日）10時から15時 熱海市立図書館にて図書館フェアが開催されます。当日はさまざまな催し物が行われます。ぜひ、ご家族でご参加ください！

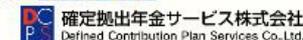
[熱海市立図書館フェアを開催します！！](#)

### 子育て応援情報

#### PR | 主婦も公務員も加入できるんです！



安心の国内加入者数No.1 確定拠出年金サービス※格付投資情報センター「年金情報」(H28/9)より算出※[続きを見る](#)



「ママフレ」をシェアしよう



・伊東市も導入検討中



# 子供の成長に合わせて情報提供

ホーム ▶ 行政サービス イベント 相談する 施設・窓口 特集 病院・救急

行政サービス 届出 | 健康 | おかぬ | あすける | 学ぶ・出かける | 相談する | 病院・救急

**届出**

妊娠・出産に関する届出

- 妊娠の届出・母子健康手帳の交付
- 出生届
- 新生児出生通知書・概出生体重届
- 国民健康保険の加入
- マタニティマーク

**健康**

お母さんの健康

- 妊婦健康診査
- 楽分娩出産等に伴う妊婦健康診査の費用助成(届出制)
- 大人の風しん予防接種補助

お父さんの健康

- 先天性代謝異常検査
- 4か月児健康診査
- 7~8か月児健康診査
- 10か月児健康診査
- 1歳6か月児健康診査
- 2歳児歯科健康診査
- 2歳6か月児歯科相談
- 3歳児健康診査

お子さんの予防接種

- 定期予防接種
- 任意予防接種

産前・産後の訪問指導

- 妊婦訪問
- 乳児退院全戸訪問(二人にちいちゃんなら)

**おかぬ**

妊娠・出産したお母さんへのお金などのサポート

- 出産育児一時金

子育て中の方へのお金などのサポート

- 乳幼児医療費(子ども医療費)の助成
- 児童手当
- 熟母子育て支援費(地域活動費)の交付

ひとり親の方へのお金などのサポート

- 児童扶養手当
- 派遣労働者生活安定給付金
- ひとり親家庭等福祉学芸奨励金
- ひとり親家庭等放課後児童クラブ利用助成事業
- ひとり親家庭医療費助成
- 母子父子学費補助金
- 自立支援教育訓練給付金
- 富海職業訓練修学給付金

未熟児・障がい・難病のお子さんへのお金などのサポート

- 未熟児養育医療の給付
- 特別児童扶養手当
- 障害児福祉手当
- 自立支援医療費の給付(育成医療)
- 自立支援医療費の給付(精神通院医療)
- 小児慢性特定疾病医療費の助成
- 特設児童(障害)医療費の助成
- 特設児童奨励金

**あすける**

新制度による教育・保育サービスの利用について

- 教育・保育施設、地域型保育の利用認定(1号・2号・3号認定)
- 地域型保育への保育料(利用者負担)
- 教育・保育施設、地域型保育の保育料の減免

定期的に利用する教育・保育サービス

- 保育園(保育所)への入所
- 幼稚園への入園
- 認定こども園への入園
- 地域型保育への入所
- 延長保育
- 休日保育
- 放課後児童クラブ

一時的に利用できる保育サービス

- 一時保育(一時保育)
- 病児・病後児保育(体調不良児等)
- ファミリー・サポート・センター

**学ぶ・出かける**

妊娠届出・子育てに役立つ教室・講座

- 両親学級
- パパママクラス
- 母乳教室(ひよびよ教室)
- 産前産後

親子で楽しめるイベント・催し

- 子育てひろば・子育てサロン
- 図書館の子ども向けイベント
- 保育園・幼稚園の園庭開放
- 未就学児幼稚園体験保育

親子で使える施設・スペース

- 地域子育て支援拠点
- 夜間センター
- 公民館
- 図書館
- 公園

**相談する**

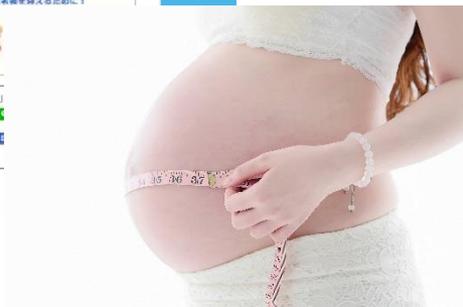
妊娠届出・子育てに関する相談先

- 相談ページへ

**病院・救急**

妊娠届出・子育てに関する病院と救急連絡先

- 病院・救急ページへ



## 妊娠出産

- 検診
- 相談

## 乳幼児

- 予防接種
- イベント

## 児童

- 遊び場
- 習い事



ホーム



行政制度(年齢別)



行政制度(目的別)



イベント



相談する



施設・窓口



特集



病院・救急

## 藤枝市のオススメ

### 子育てタウン「藤枝市ママフレ」のアプリをご利用ください！



平成29年3月23日に、子育てタウン「藤枝市ママフレ」のアプリが公開となりました。アプリをダウンロードすると、藤枝市の子育て情報やイベント情報などがタイムリーに届くようになります。ぜひご利用ください！

[子育てタウン「藤枝市ママフレ」のアプリをご利用ください！](#)

### 「子育てマイレージ事業」がスタートしました。



父親の育児参加を応援する「子育てマイレージ事業」がスタートしました。チャレンジ期間内に育児・家事参加をすることによりマイレージポイントがたまり、100ポイント以上たまるご店舗で優待が受けられます。詳しくは下記リンク先をご覧ください。

[https://fujieda-city.mamafre.jp/service-target\\_age/](https://fujieda-city.mamafre.jp/service-target_age/)

[全国版「子育てタウン」サイトからのオススメ](#)

## 子育て応援情報

### PR | 節税効果に注目！



安心の国内加入者数No.1 確定拠出年金サービス※格付投資情報センター「年金情報」(H28/9)より算出※[続きを見る](#)

 確定拠出年金サービス株式会社  
Defined Contribution Plan Services Co.,Ltd.

「ママフレ」をシェアしよう

[ツイート](#) [LINEで送る](#)

[いいね!](#) 14

[つぶやく](#)

探したい年齢のチェックボックスにチェックを入れると、その年齢で使える(対象となる)制度が表示されます。

制度名	☑妊娠前半	☑妊娠後半	☑出産	☑0歳	☑1歳	☑1歳半	☑2歳	☑2歳半	☑3歳	☑4歳	☑5歳
<b>届出</b>											
<b>妊娠・出産に関する届出</b>											
・妊娠の届出・母子健康手帳の交付	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
・出生届	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-
・国民健康保険の加入	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-
・マタニティマーク	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>健康</b>											
<b>お母さんの健康</b>											
・妊婦健康診査	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
・里帰り出産等に伴う妊婦健康診査の費用助成(償還払い)	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>お子さんの健康</b>											
・4か月児健康診査(個別健診)	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-
・10か月児健康診査(個別健診)	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-
・1歳6か月児健康診査(集団健診)	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-
・3歳児健康診査(集団健診)	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-
<b>お子さんの予防接種</b>											
・定期予防接種	-	-	-	○	○	-	○	○	○	○	○

## 子育て応援情報

### PR | 主婦も公務員も加入できるんです！



安心の国内加入者数No.1 確定拠出年金サービス※格付投資情報センター「年金情報」(H28/9)より算出▶[続きを見る](#)

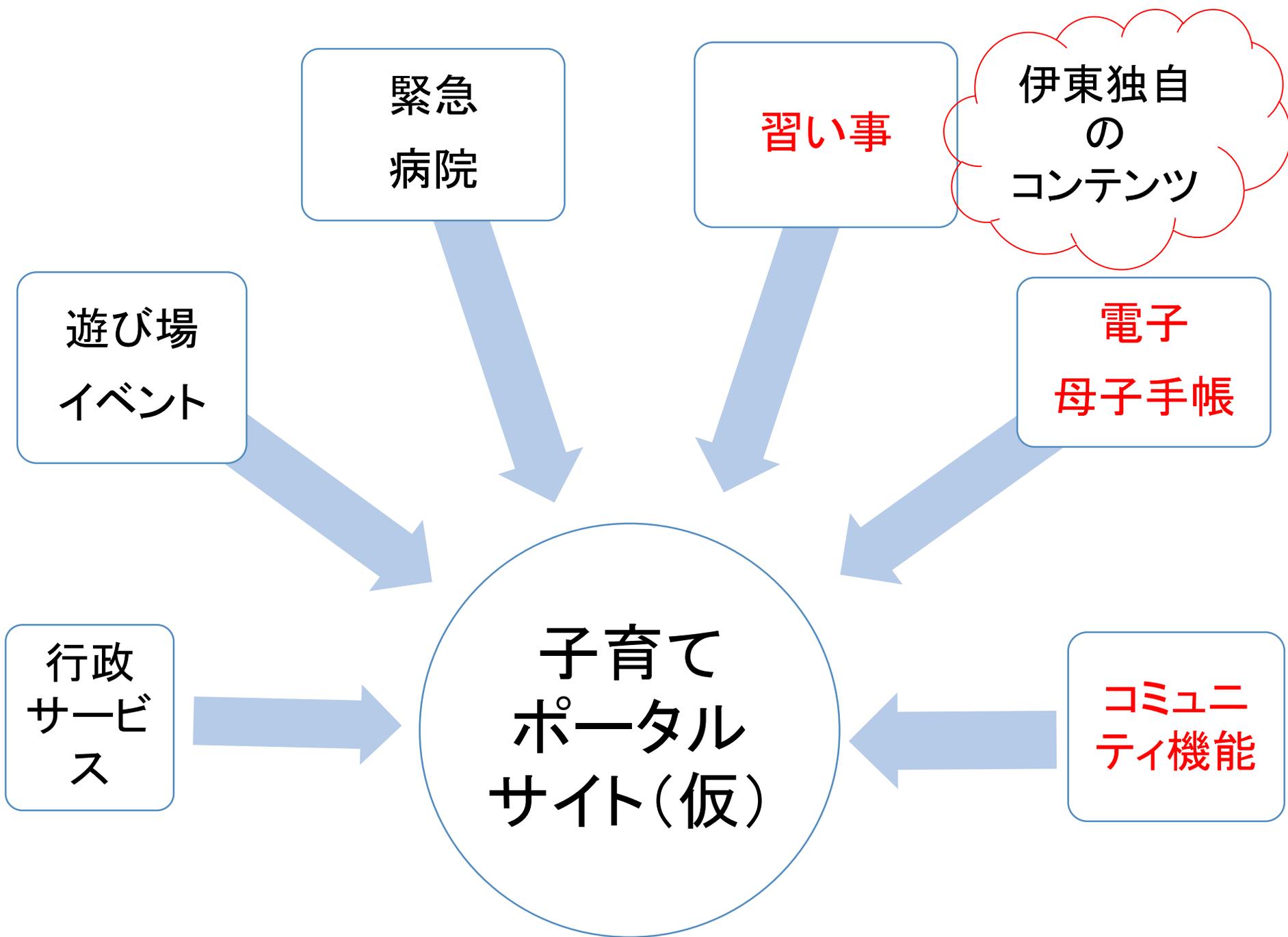
確定拠出年金サービス株式会社  
Defined Contribution Plan Services Co.,Ltd.

「ママフレ」をシェアしよう

ツイート LINEで送る

いいね! 14

つぶやく



## 4.期待される効果

- 子育て情報について、欲しい情報が**手軽に**得られる
- 子育て**ストレスの軽減**

## 5.懸案事項と対応策

### 【懸念事項】

- ・より普及させるためにいかにPRするか
- ・転入者への告知

### 【対応策】

- ・母子手帳を渡すときに案内する
- ・母子手帳にQRコードを載せる
- ・保健士さんに案内してもらおう



# 未来ビジョン会議 ～子育てしやすいまちづくり～

## Cグループ

※委員の氏名は非公開  
でお願いいたします



# 政策の名称

女性をターゲットにした  
総合専門学校設立



# フローチャート

問題 コミュニティ縮小(少子化)⇒子育てしにくい

総合専門学校設立

若年層の  
人口増加

出生率上昇

コミュニティ拡大

子育てしやすい環境



# 課題・問題・背景

大学進学により、若年層の人口減



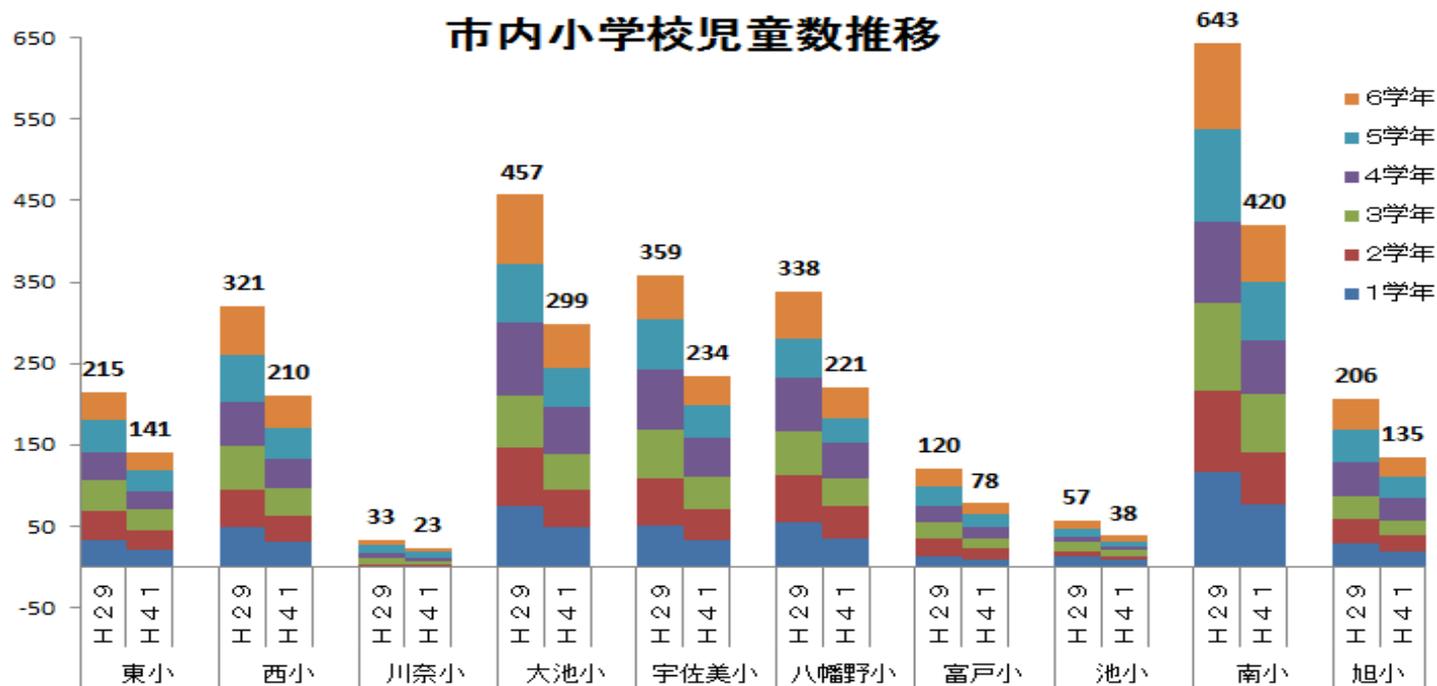
出生率低下

少子化

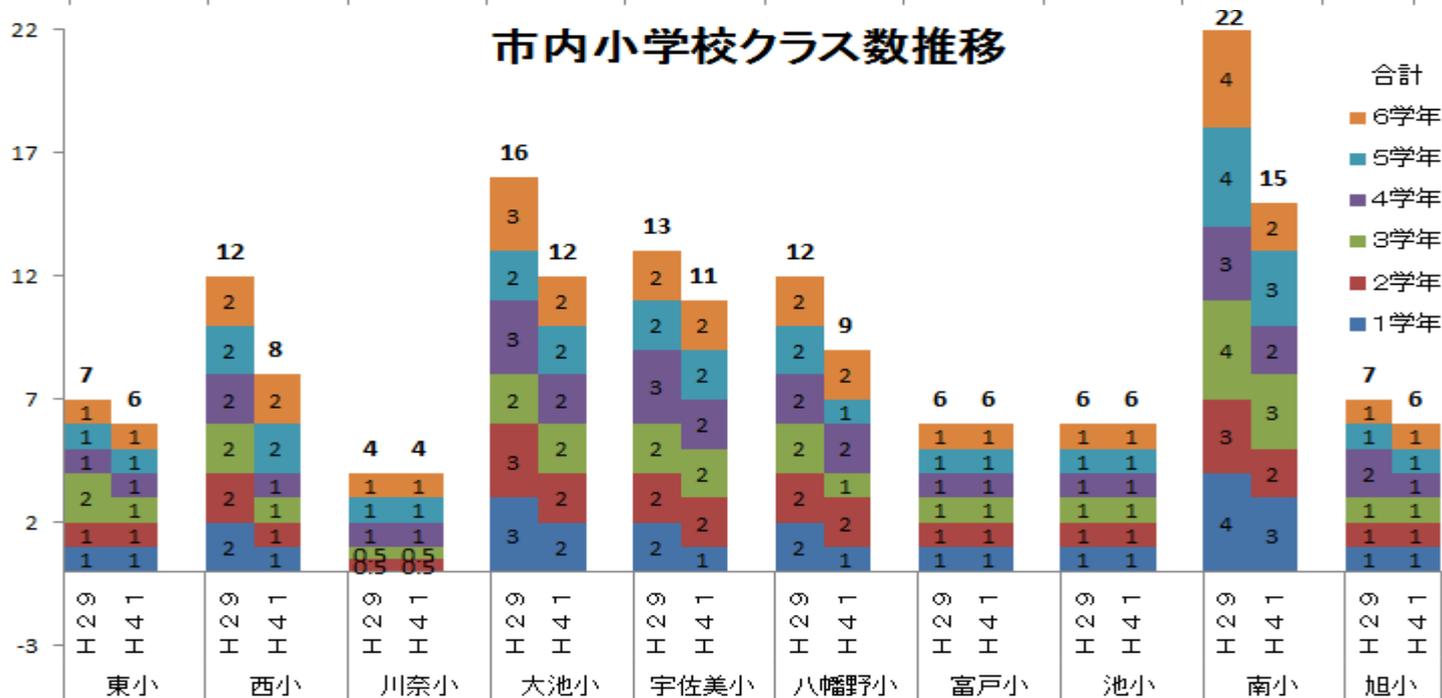


子供の数が少なくなり、子供も親もコミュニティが狭くなる

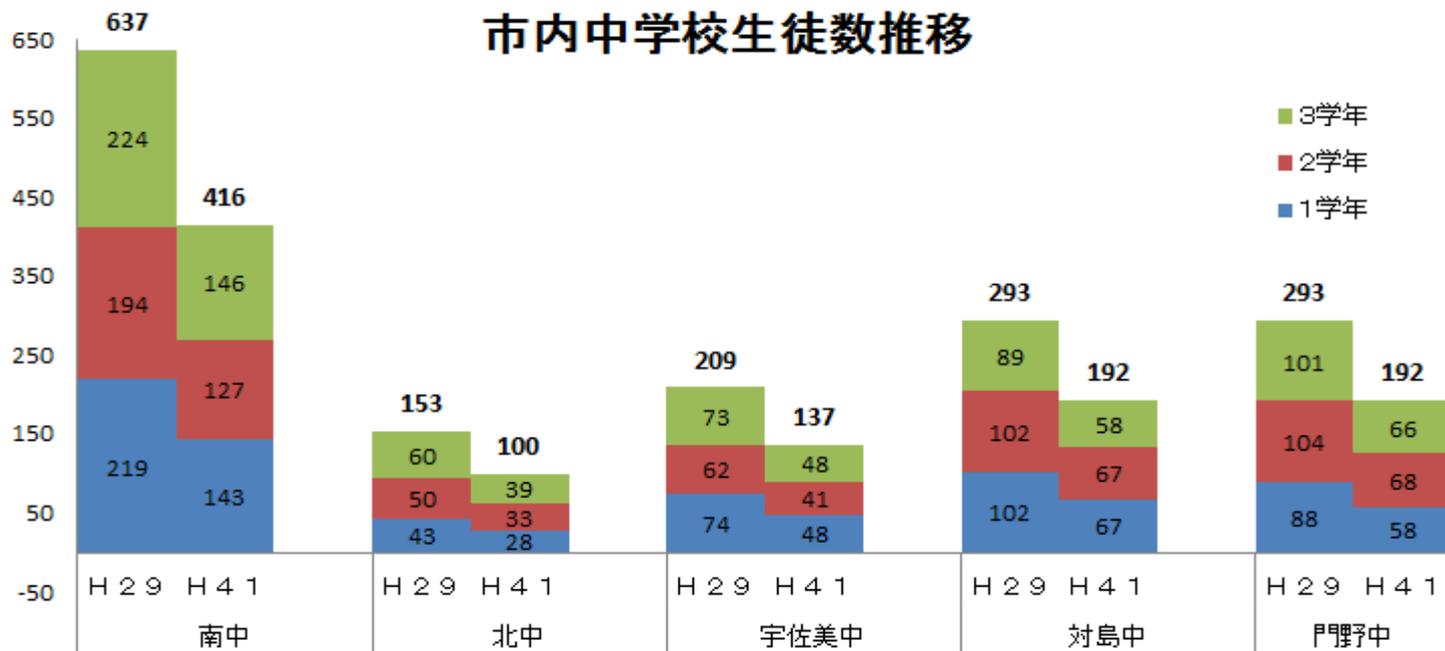
## 市内小学校児童数推移



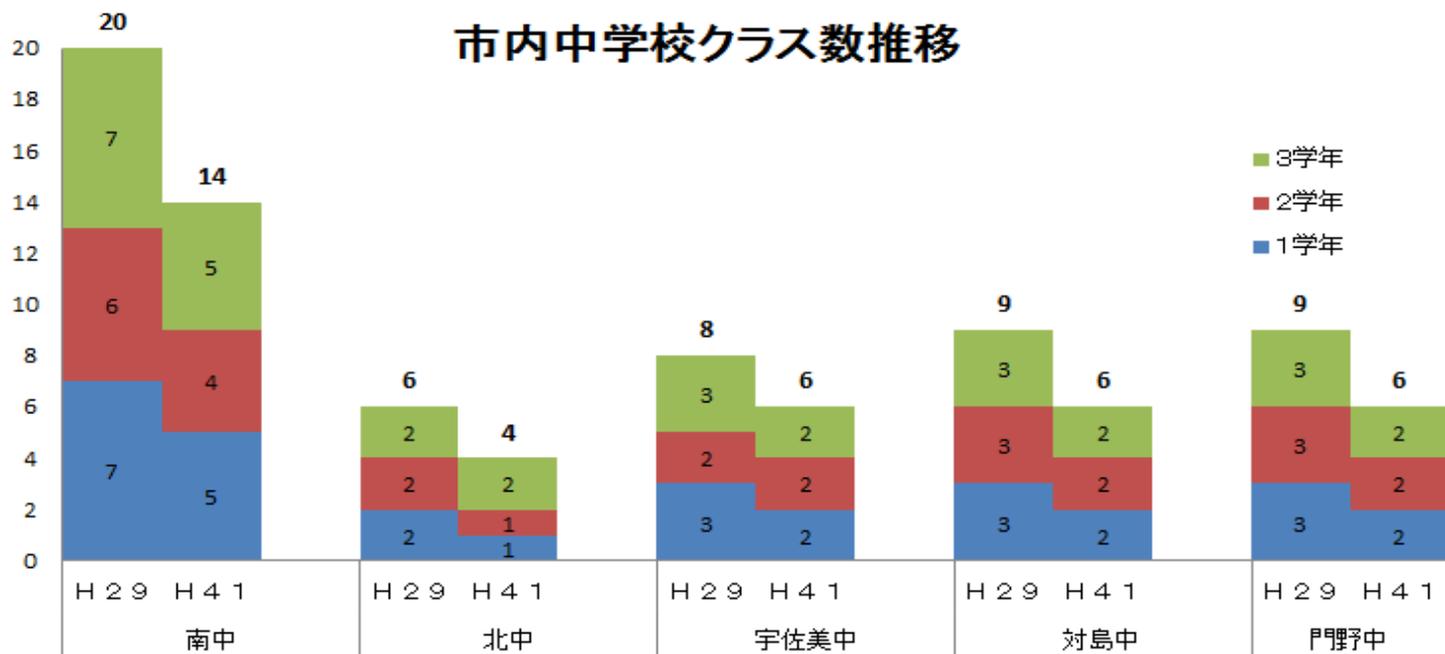
## 市内小学校クラス数推移



## 市内中学校生徒数推移



## 市内中学校クラス数推移



# 狭いコミュニティで子育てをする場合の問題点

## 親の場合

情報交換できるママ  
(パパ)友が少ない…  
多様性が重視される  
時代だけど、子供の  
考え方が偏らないか  
不安…

## 子供の場合

友達もっとほしい  
なあ…  
気の合わない子が  
いても1クラスしか  
ないから、ずっと一  
緒で不安



# ニーズ

伊東市の出生率を上げ、親も子も多くの人と関わりを持てる環境を作ることが、子育ての不安を取り除き、子育てしやすいまちづくりに繋がる



出生率を上げるためには、若年層の人口増加が必須



大学進学による若年層の人口減少を防ぐために、伊東市に総合専門学校を  
設立する

# 伊東市総合専門学校の目的

- ・伊東市のみならず、近隣市町の住民に入学してもらう
- ・卒業後、伊東市の企業に就職してもらう



# 伊東市が実施すること

- ① 学校法人の誘致
- ② 学校施設の確保
- ③ 奨学金制度の整備



# ①学校法人の誘致

- ・伊東市で就職できる学科を設置する学校法人の誘致
- ・公開授業など地域住民と交流

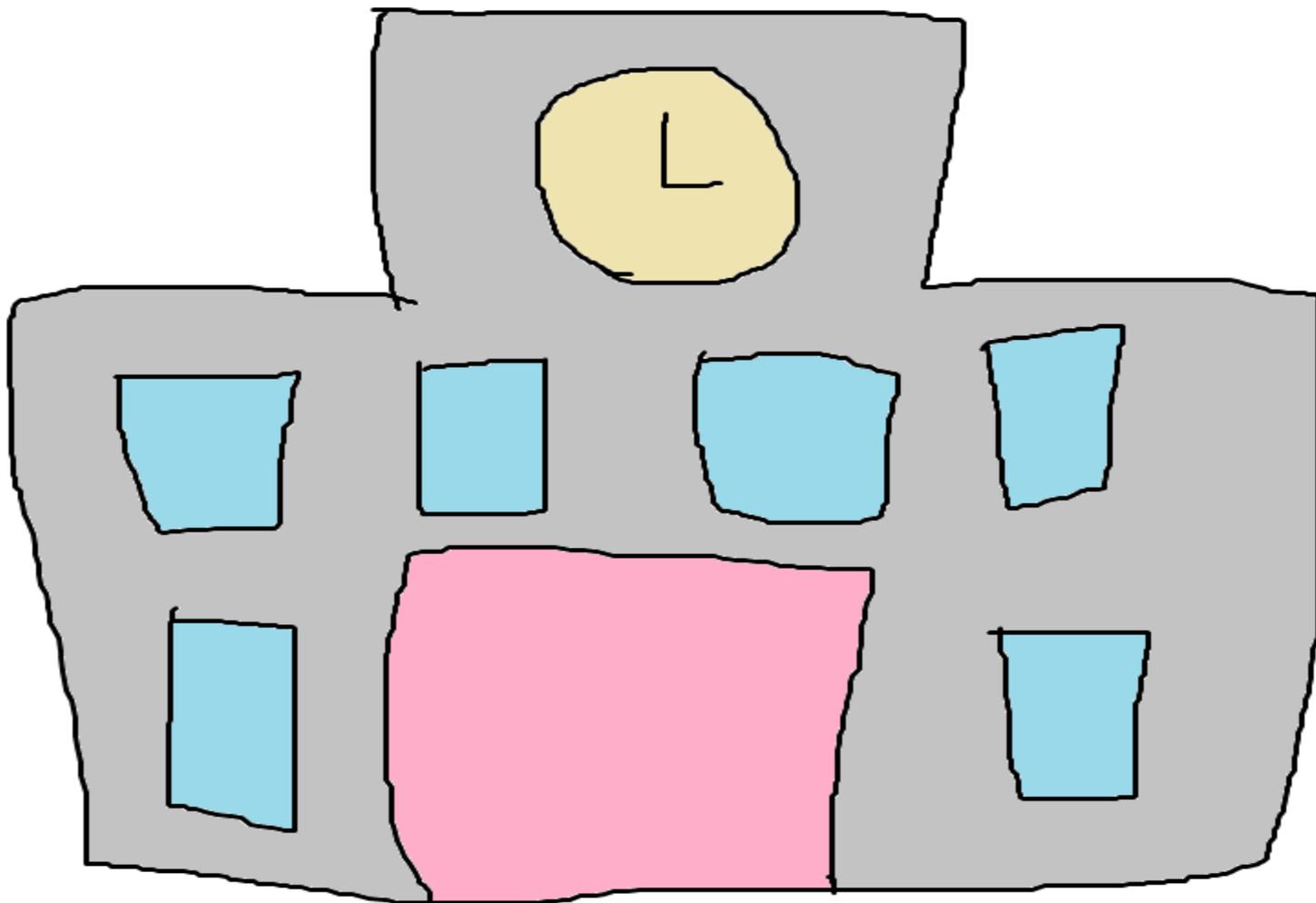


# ②学校施設の確保

## 旧伊東市民病院



# 学校を統廃合した場合、廃校になる学校



# ③奨学金制度の整備

現行

平成29年度伊東市育英奨学金 大幅改正

Topics

- ・貸与額の増額
- ・給付枠の廃止
- ・入学一時金の創設
- ・Uターン支援（半額免除）制度導入



◆Uターン支援制度

卒業後、伊東市に住所を有する間、  
返還金の2分の1が免除されます。  
(一度市外に出て戻ってきても対象)

旧制度	月額奨学金	入学一時金
高校生等	1万円	-
大学生等	2万円	-

↓

新制度	月額奨学金 (上限額)	入学一時金 (上限額)
高校生等	3万円	30万円
大学生等	5万円	60万円



〇月〇日  
直 伊東花子  
日 伊東太郎

伊東市総合専門学校在學生・卒業生に限り、出願資格の拡大や、免除額の増額を行う。

# 期待される効果

人口 ↑ + 就職率 ↑ + 地域の交流 ↑

出生率の増加、コミュニティ拡大により、  
子育てしやすいまちに



# 懸念事項

- **入学者の確保**
- **条件と一致する学校法人を誘致できるか**
- **卒業後、伊東市で就職できるか**



# 対応策

- ・あらゆる媒体で、伊東市・近隣市町村への周知する
- ・学校法人が手を挙げた場合に、学科等譲れる範囲と譲れない範囲を定めておく
- ・卒業生と市内の企業を結びつける就労支援を整備する



# まとめ

総合専門学校設立

若年層の  
人口増加

出生率上昇

コミュニティ  
拡大

子育てしやすい環境

- ・子供が増えることで、親同士の情報交換も増える。
- ・様々な家庭があることで、子育ての相談をしやすいママ(パパ)友が見つかる可能性も。
- ・子供自身も、いろいろな友達ができる。

**御清聴**

**ありがとうございました**

